

## 保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 札幌協働福祉会
施設名	あいの里協働保育園
報告者(役職)	田鎖 和美 (主任保育士)
住所・連絡先	北海道札幌市北区南あいの里5丁目6-1
	☎011-770-5300
	E-mail:tagusari@sapporo-kyoudoufukusikai.jp

○タイトル (保育計画)

子どもと親と職員をつなぐ絵本の世界

○主な助成備品

絵本棚・テーブル・マット・絵本

### 1. 実施した保育計画策定の目的

#### ☆園舎2階の子育て支援スペースを有効に使った絵本コーナーの設置

36年前、姉妹園の札幌協働保育園開園時の初代理事長が当時旭川大学女子短期大学の助教授をされていた野々川輝一さんでした。野々川理事長の専門が「絵本」ということで、絵本の読み聞かせについては理事長自らの指導のもと園をあげて取り組み、今に至る財産になっています。平成24年に開園した私達のあいの里協働保育園でも、絵本の読み聞かせは毎日の保育の中に欠かせない大切な時間として引き継がれています。しかし、開園当初はまだ絵本の本数が足りなく各クラスのお部屋に少しずつという状況でした。そこで、下記のような目的を持って絵本コーナーの設置に取り組みたいと考えました。

- ① 園での読み聞かせを通し、数多くの作品に触れることで「目で見て耳で聞き」物語の世界が子どもの心の中に広がり心の豊かさを育む。
- ② 保護者の方々に絵本の魅力を知って頂くきっかけとし、園と家庭の両方で楽しみを共有し子どもと親と職員のコミュニケーションを深める。
- ③ コーナー化することで、職員の絵本への意識もさらに高める。

また、当園の2階には通常の保育室の他に子育て支援スペースがあり、その半分には写真にありますように、ままごとコーナーを設けています。子ども達に大変好評で園に通う0歳児さんから年長さん、一時保育でお預かりするお子さんや園を見学に来られる地域のお子さんまで幅広く楽しんでくれています。



←ままごとコーナーの隣の半分が、まだ空いていた為、この度そのスペースを利用しての絵本コーナー作りとなりました。

## 2. 具体的な実施内容

＜絵本コーナー設置までの取組＞

### (1) 絵本の選定

「こんな絵本があったら良いなあ」「少しずつでも増やしていきたいね」と日常の保育の中で職員間で漠然と話に出ていたものを、乳児さんが楽しめる本から年長さんが楽しめる本、また絵本のジャンルも偏らないように等、職員間で相談しながらリスト化して選びました。

## (2) コーナーのお約束ごとを決める

みんなで気持ち良く楽しく使えるように、子ども達にもわかりやすい簡単なお約束事を決め、送迎時に子ども達と一緒に絵本を見る保護者の方々にも協力頂けるように見やすい場所に掲示しました。

## (3) 絵本を長く大切に使えるように番号をつけシートを貼る

良い絵本は何年、何十年先の子ども達にも喜んでもらえる財産になります。  
この度 200 冊以上の絵本を購入させて頂きました。できるだけ紛失や破損を減らし長く大事に使いたいという思いをこめて、一冊一冊五十音順に並べた通し番号をつけ、保護シートを貼りました。

### <実際の絵本コーナー>



## 3. その成果と評価

- ・今まで絵本の冊数が足りなかった為、保育室での毎日の読み聞かせがマンネリ化してしまっていたのですが、今回200冊以上の本を購入させて頂き選択の幅が広がり、季節やその日の活動に合わせた絵本を選ぶことができるようになりました。

「保育園にある〇〇の本が欲しい！」と子どもが言うようになったという、お母さんからの言葉も聞かれるようになりました。

- ・各保育室の棚の上ではなく、子ども達が自由に絵本を手にとることができる場所にたくさん絵本を並べられるようになったので、送迎時に保護者と一緒に絵本を手にとってみてもらえるようになりました。

- ・上記2点が実現できたことに伴い、各保育室の前に「きょうのえほん」として、その日にクラスで読んだ絵本の紹介も始めました。



- ・絵本を題材にした遊びや製作をする機会も増えました。下の写真は子ども達が大好きな「きょうはマラカスのひ」の絵本を真似て手作りマラカスで遊んだ日のものです。



#### 4. 今後の課題と展望

- ・家庭への貸し出しまで今年度中にはできなかったのですが、貸し出し方法を検討して来年度は、園で読むお気に入りの本を家に持ち帰って保護者の方とゆっくり楽しんでもらえるようにしたいと思います。
- ・今回の取り組みを通して「絵本っていいよね!」「絵本って楽しいよね!」とあらためて感じる事ができました。今後も外部の研修や園内での勉強会を重ねて、職員の絵本への思いや知識をさらに深め、子ども達や保護者の方達と一緒に絵本の魅力を共有できる機会を増やしていきたいと思っています。



「めっきら もっきら どおんどん」より